

広島県福山市が 小中一貫教育から転換 初の公立イエナプラン教育校

鶴岡市教育委員会が進める「小中一貫教育」は、失敗しないか？
転換した広島県福山市に学ぶ。

ユニセフが公表した「子どもの幸福度」世界一のオランダで普及した「イエナプラン教育」が今、注目されています。

2019年には、日本で初のイエナプラン認定校として、私立の大日向小学校（長野県佐久穂町）が開校していました。

公立初のイエナプラン教育校として、広島県福山市が22年4月、常石ともに学園を開校しました。

小中一貫校で閉校した市立常石小学校の施設を活用しています。広島県福山市（人口



1～3年生の子どもたちが、それぞれ自分の知っていることを出し合い、それをホワイトボードに書きながら、足し算について考えている様子。違う学びをしてきた子ども同士が対話することで、それぞれ違う発見があり、それを出し合うことでさらに学びが広がる。

市教育委員会は、2017年度の調査・分析で、子どもの学びは、教科や学年枠を超えること、理解する過程や方法、進度は子ども個々に様々であることを確認していました。

そうした研究から、子どもが自ら学びを進めていく教育が重要だと考え、オランダで見た子どもの姿が理想と重なっていたとして、導入を決めました。

イエナプラン教育は、1～3年生、4～6年生の異学年集団を基本単位で学びます。

異学年集団で、「子どもたちは、一緒に活動していくうちに、年齢に関係なく互いの個性や発達、経験などの違いをあたり前のように受け入れられるようになります。

年長者と年少者が互いに助けたり教えたりすることが日常的に行われています」と、甲斐和子校長は述べています（ベネッセ教育情報から・上写真も）。

茨城県つくば市に続き、小中一貫教育から転換する自治体が生まれています。

村の四季

49

鈴木重雄（八色木）

里の秋

♪しずかなしずかな
里の秋 お背戸に
木の葉の落ちる夜は
ああ かあさんとただ
二人 栗の実煮てま
す いろいろばた

山里の静かさが伝わってくる。

畦道や野原にミソソバ（ウシのヒタイ）、イヌタデ（アカマンマ）が真っ赤な小花をつけ、澄んだ青空に輝き、実の落ちる頃は里の秋である。

今のように機械化される前の稲刈り時期は早かった。9月15日の余目まつりの前に、苗代の稲刈りを終えたい。苗代はぬかるので、作業がしにくいので早く終えたい。稲刈りは田植え同様、一年の中で一番忙しい作業で、小学校も高学年になると農繁期休みがあつて、手伝いさせられた。

大相撲秋場所千秋楽が彼岸の中日であつたが、刈り上げをした家もあつた。

刈り上げには「おはぎ」か、餅をついて農作業の区切りを祝い、神仏に供え、働いてくれた人や親戚などに配っていた。

杭掛けした稲は、10日も過ぎれば穂先も乾くので、今度藁を乾かすために、穂を内側にして藁を干す「稲返し」をする。朝露の乾くのを待つて作業にかかる。爽やかな秋空で、流行歌

などを口ずさみながら、一日の作業を終える。秋の空は天気も変わりやすいので、天候の予測をしながら作業をしていた。何処の村にも一人二人は天候に詳しい年寄りがいたものだ。戦時中は天気予報はなかった。

鳥海山に首切り雲がかかるのと、天気は降り坂、春北、秋南の定説があつた。

稲刈りも、手刈りの時代から、バインダーという機械が導入され、ハーベスターで脱穀した藁は、家畜の飼料や藁作業の材料にするが、残りはスタスタに切断して田んぼに撒いてくる。田んぼのあちこちに藁屑の山が出来るので、火をつけて焼却する。この赤い炎は夜になつてもチラチラ燃えて、遠くから見ると美しいなあと思うが、煙公害と言われるようになって焼却はしなくなつた。

今は大型圃場に大型コンバインが駆使され、みるみるうちに刈り取られて行く近代農業へと変わった。

庄内地方は全国的にも機械化が早かつたが、なかでも藤島、三川は早かつた。農作業を早く終えて都会に出稼ぎに行くためでもあつた。高額な農機具代を支払うために、出稼ぎする悪循環になつたのである。これを農機具貧乏と言っていた。

「市景観計画」改定 シミュレーション画像も

平成25年(2013)3月策定の「鶴岡市景観計画」が、令和5年3月改定されました。

景観計画は、良好な景観を形成するための方針や、具体的な制限事項等を示し、景観良好なまちづくりを推進するために策定するものです。

特に、「大規模再生可能エネルギー発電施設と景観との調和」、

「羽黒地域の手向地区と、松ヶ岡地区における歴史的・文化的景観の保全」、

「鶴岡らしさを表す、通りや内川の眺めの継承」を、喫緊の課題としてあげています。

新たにパネル面積

新築、増築、改築、移転、外観の大規模な修繕、もしくは大規模な模様替え行為の制限では、届出が必要なものは、

建築物で、高さ13mを超えるもの、または建築面積500㎡を超えるもの。

工作物で、高さ15mを超えるもの。

太陽光発電施設については、パネル面積の合計が500㎡を超えるもの。ただし、屋根や壁面への設置を除きます。

地区における制限で

1. 羽黒地域大鳥居周辺地区
2. 羽黒地域手向地区

3. 羽黒地域松ヶ岡地区

4. 美咲町シンボルロード地区などがあげられています。

令和4年11月18日に第2回景観審議会が開かれ、委員から「風力発電施設は工作物として、一緒に扱われており、単体で項目を設けるべき」との意見が出されていました。



パターンa 設置場所：金峰山 視点場：鶴岡城西側の堀
三瀬サイズ：400kW ハブ高さ：85m ローター直径：108m 全高：140m



パターンb 設置場所：金峰山 視点場：鶴岡城西側の堀
2030 サイズ：15mW ハブ高さ：170m ローター直径：230m 全高：285m

事務局は、「太陽光と風力はこれまで工作物として扱ってきたが、工作物は高さの届出要件しか規定されていなかったため、太陽光の面積を追加した。風力はガイドライン等の運用で規制が可能」と答えています。

「計画」の資料編が充実しており、建築物や風力発電等が景観に与える影響を、シミュレーション画像を用いて「見える化」しています(左図)。

東田川史跡物語 藤島に居住

青山 崇

年地震以来の激震であった新潟地震が、1964年6月16日13時1分に起った。その10日後の26日、鶴岡の2階借家は危険と、八幡様南側にある県官舎が空いたので移住した。

以来2022年まで60年ほど藤島に居住した。

史跡は町役場敷地であったのですが、近くなつたが、何も知らなかった。知ったのは東田川文化記念館が開館し



私が藤島に来たのは、庄内農校に新任した1957(昭和32)年4月のこと。庄内で明治27

た1996年、今から

30年ほど前で、ごく近年のことである。

役場庁舎が法眼寺正門より50mほど北側の地から、この史跡地に移ったのは、戦中の1943(昭和18)年、以来1983(昭和58)年現庁舎に移るまで40年間はこの地にあった。

ほとんどの町民は役場としての想い出はあるでしょう。また大正以前の生まれの人は電気事業組合事務所・田川郡農会事務所の想い出もあるかもしれませ



命が狙われる原因は

起きろよ起きろ、皆起きろ、起きねと班長さんに叱られる、とは起床ラッパ。床取ってしょんべんして寝れ、寝て又泣くのかや、とは、消灯ラッパで、親父から聞いた陸軍のラッパの合図に付いた唄なんだと。昔の軍隊はラッパの合図で行動していたという。蛇足だが、俺の近所の農業試験場・庄内分場の学生は、太鼓が合図だった。

▲しかし、皆との行動に後れをとったり間違いがあれば、上官からぶん殴られたものだった。手で叩くと手が痛いから色んな物で殴るものだった。今はどうなんでしょう。セクハラで裁判になったりはしているが、上官のイジメやイヤガラセは？映画にはよくあったものだった。

▲自衛隊で、あつては

ん。

この頃の日本は、政治を中心に各界で革新の風が吹いた。高教組庄農分会は職場要求実現運動が起こった。戦後も変わらず職員トイレは男女共用であった。若い女教師から女子トイレ新設の要求がだされるが、数回の校長交渉でも良いと言わなかった。中年の女教師はある宴席で「良かったーや」とオナラもノビノビ出来る」と言って笑わせた。

ならない事が起きたとは、統合幕僚長の言。年がいつている上官は、自分の子供のような18歳の候補生にやられたのだ。今年の4月に自衛官になる事を志し、給料を貰って訓練に励んでいたのですが、命を狙わなければならぬ程のどんな事があつたんでしょうかの。訓練期間はもうすぐ終わり、任官されようというのに。

▲幕僚長は、真相究明の為に第3者委員会を立ち上げると発表していたが、どんな方々が選ばれて委員会は動き出したのだろうか。今のところのテレビの発表では、弾は銃を撃つ場所に着座してから渡し、充填させるのが手順で、この時はそうなっていないかったという。

▲また亡くなった上官は、18歳の彼の上官ではなく、命を狙われる接点が不思議とも。真実の発表を乞う。(石川)